

普通期水稻管理情報 NO.1

【元気つくし】・《ヒノヒカリ》

J A 粕 屋
北筑前普及指導センター

1. 生育概況

6月中下旬の平均気温は平年並、降水量並びに日照時間は平年より多く推移しました。
7月5日の現地生育調査結果は、下記のとおりです。全体的な傾向として軟弱徒長気味の生育となっています。

〔現地調査結果：7月5日〕（※地区や植え込み本数で差がありますので目安として考えて下さい。）

品種	田植時期	稲1株あたり莖数（分けつ数）〔本〕	平均草丈〔cm〕
【元気つくし】	6月10日頃	12～15	44
	6月17日頃	4～9	34
	6月24日頃	3～6	30
《ヒノヒカリ》	6月10日頃	11～13	38
	6月17日頃	4～8	26
	6月24日頃	3～6	25

2. 水管理

（1）間断かん水

水を溜めっぱなしにしておくと、ガスが発生し根腐れを引き起こします。間断かん水（湛水→自然落水→湛水の繰返し）で適度にガス抜きを行い、根を健康に保ちましょう。

（2）中干し

上記間断かん水実施後、稲1株あたり15～18本程度の莖数（分けつ数）が確保できたら、中干しを行いましょう。

① 実施の時期

品種	田植時期	中干し目安時期	参考：平年の出穂期
		（この間で7～10日程度実施して下さい）	
【元気つくし】	6月10日頃	7月11日～7月20日頃	8月14日頃
	6月17日頃	7月16日～7月25日頃	8月19日頃
	6月24日頃	7月20日～7月29日頃	8月23日頃
《ヒノヒカリ》	6月11日頃	7月17日～7月26日頃	8月24日頃
	6月18日頃	7月22日～7月31日頃	8月27日頃
	6月25日頃	7月25日～8月3日頃	8月28日頃

② 実施のポイント

- ・土壌が黒色で、田面に浅い亀裂が入る程度を基準とします（土壌が白色になると干し過ぎです）。
- ・生育過剰の場合や排水不良のほ場では、やや強めに中干しを行いましょう。
- ・生育が不足気味の場合や水持ちの悪い田では、軽めに干しまししょう。
- ・中干し後は、一気に深水にせず、走り水程度から始めて、徐々に湛水しまししょう。

③ 実施の効果

- ・土壌のガス抜きと酸素の供給によって根の活性を増し、根腐れを防止します。
- ・窒素吸収を抑制し、無効分けつを抑えます。
- ・倒伏を軽減させます。また、コンバイン収穫の作業性が向上します。

3. 病虫害補正防除

- ・放置されている補植用苗（置き苗）は、いもち病の発生源となるため、必ず除去しまししょう。
- ・特に、雨が降って気温が低い日が続くと、「いもち病」が発生しやすくなります。
発生した場合は平成30年度稲作ごよみ《補正防除》を参照し、早めに補正防除を行いましょう。

4. 雑草補正防除

- ・雑草の取りこぼしがある場合は、下記の除草剤を散布して下さい（登録農薬の状況は平成30年6月6日時点）。
- ・雑草の生育が進むと除草剤の効果が落ちるので、雑草が多い場合は早めに散布して下さい。

対象雑草	除草剤名	薬量（10aあたり）	使用時期	使用上の注意
イネ科雑草 カヤツリグサ 広葉雑草	クリンチャーバス ME液剤	水100Lに 1000ml	移植後15日～ノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	落水状態で散布する。 高温時散布はさける。 展着剤は加用しない。
	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	移植後15日～ノビエ4葉期まで 但し、収穫45日前まで	湛水状態で散布する。

- ・広葉雑草の発生が無く、キシウスズメノヒエが多い場合は、「クリンチャーEW」を使用（移植後20日～）して下さい。